

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1273100295		
法人名	社会福祉法人 天祐会		
事業所名	グループホーム富士見苑		
所在地	千葉県富津市篠部2310-3		
自己評価作成日	令和7年2月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.tenyuukai.jp/fujimien_main.html">http://www.tenyuukai.jp/fujimien_main.html</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	〒275-0001 千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	令和7年3月14日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>ご利用者が健康で穏やかな生き生きとした生活が出来る支援を心がけている。</p>
--------------------------------------------

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>当該施設は、自然光が差し込む天井窓やバリアフリー設計のフローリング床が特徴で、車いすでも移動しやすい広々とした空間が確保されている。また、施設は平屋作りで、事務所を中心に左右に二つのユニットに分かれており、スタッフが各ユニットの状況を常に把握しやすくなっている。さらに、安全管理においては、避難確保計画や初動対応、大災害対応の連携を意識したBCP(事業継続計画)が作成されており、災害時には「守る」「逃げる」「判断して行動する」といった基本方針に基づいている。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	1/9	

# 1 自己評価及び外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議(月に一度)に法人理念と富士見苑理念の唱和を実施している。	利用者第一主義を基盤に、職員同士が日々注意し合いながら優しさと思いやりのあるケアサービスを提供している。職員は利用者への言葉がけにも丁寧さを意識し、毎月の職員会議でも理念の共有と実践について話し合いを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催し物への参加(10/11)に参加、また、来年度は祭りのお囃子の来苑を予定している。	地域の自治会に加入し、回覧板が回ってきた際には簡単な挨拶を行っている。また、コロナ禍前に実施していた祭りのお囃子を敷地内で再開できるよう区長に申し入れを行い、消防訓練時には近隣住民に事前案内を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	殆どしていない。問い合わせがあれば対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回実施し、施設の状況を報告。災害時の対応のアドバイスを受ける。	運営推進会議は書面からリアルな開催へと移行し、参加者は富津市介護福祉課、地域包括支援センター、区長、施設長で構成されている。会議では事業所の活動報告や利用状況の報告に加え、緊急時の応援要請や、緊急車両の通行を妨げる木の伐採依頼なども行っている。	運営推進会議に利用者や家族の参加を促進し、自己評価や外部評価の結果を踏まえ、外部の視点から事業所の取り組みや改善課題を議論することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて施設状況を報告。また、市から居室の空き状況の確認や入居依頼があった際に連絡を取っている。	昨年からの要望していた防災緊急時用のアンテナ設置と無線機器が富津市から補助金を活用して認可され、貸与の条件で設置された。また、富津市社会福祉課、介護福祉課、地域包括支援センターとは、利用状況や空室に関する問い合わせなどで連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回、身体拘束の施設内研修を行うと共に、職員会議や朝礼、昼礼にて身体拘束は行ってはいけない旨を話している。現在、玄関は20時に施錠し、朝、6時に開錠しており、身体拘束を行っているご利用者はいない。	マニュアルを整備し、職員がいつでも確認できる体制を整えている。利用者に待機をお願いする際には、「ここが終わったら、行きますね」と前向きな表現を使い、否定的な表現を避けている。また、玄関の鍵は新聞配達のため、毎朝6時に開錠し、夜10時に施錠しており、日中は施錠をしていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で虐待・人権の研修を行い、虐待があれば職員間で注意をし、管理者に報告するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時や退所時に説明した後に質問や分からないことがないか尋ね疑問、不安がない様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者や家族の意見、要望は朝礼や昼礼、職員会議で伝え、外部者には運営推進会議で発表している。	職員は食事メニューなど、何気ないことでも口数が少ない利用者への声掛けを心掛けている。家族へ請求書を郵送する際には、利用者の最近の健康状態や身体の具合を報告し、A4サイズの封書で送付する際には利用者の様子の写真も添付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から随時に意見を聞き、又、職員会議に聞いている。	施設長は職員に注意を促すこともあるが、普段は積極的に職員に声をかけてコミュニケーションを図っている。補助金付き機械浴の導入については、富津市からのアンケートを受け、職員との話し合いで導入を決定した。また、利用者一人ひとりの介護方法については、日常的に意見交換を行い、改善に向けた話し合いを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休(2日)や昇給、処遇改善加算の取得により働きやすい職場環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修、外部研修を行い能力を高められる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会を構築することは行っていない。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前、入所時に疑問点や要望等を訪ね納得できるように説明し、安心して施設生活を送れる様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、入所時に要望や疑問点等を訪ね説明しまた、入所後も何かあればあ質問するよう、話している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族に話しを聞き、アセスメントを行いサービスの見極め、当施設で対応できない場合には、他のサービスの提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	要望や話しがあれば随時、聞き取りを行い問題解決し、また、簡単な調理や掃除や等を職員と一緒にいき、共に生活している関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の要望や状況を伝え、病院受診や診察の立ち合い、買い物依頼等を行い、家族と共にご本人を支援するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者から要望があれば対応している。	利用者が今までの生活でしてきたことの継続支援として、読売新聞の定期購読や、塗り絵が趣味の利用者にはPCからダウンロードしたものを提供している。また、台所では食器を拭く作業を行ってもらい、日常の活動を維持できるようサポートしている。さらに、2か月ごとの訪問理容サービスも受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おやつ時やクリエーション時に職員が利用者の中に入り、ご利用者間の関係づくりを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	殆ど行っていない。連絡や訪問があれば実施している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り、ご利用者の要望や意意向を把握し、出来る限り本人の要望が実現出来る様にしている。	この1年間利用者の入れ替えもあったが、入居時の意向については家族の意見がどうしても優先してしまう傾向にある。生活に慣れて頂けるまでは帰宅願望がなかなか収まらず、この間職員は最も苦勞をするが、半年もすれば慣れてくる傾向にある。利用者の高齢化が進んでいる事もあり意思疎通が難しくなっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や相談員、ケアマネージャー等から聞き取りを行い把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	行動観察や介助時、日ごろの健康観察により、一日の過ごし方や心身状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族と話し合い、利用者の状態にあった介護計画の作成をしている。	月1回の職員会議でスタッフ全員がモニタリングした情報を基にケアプランの作成・更新を行っている。気がかりな利用者については、ドクターや家族とも相談を行う事になっているが、半年に1回のこの作業も姑さん等の場合、あまり関わりたくないような感じのご家族もあったりするが、その場合は別途時間を作って話しをするように心掛けている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援・利用者状況、変化をケース記録や業務日誌に記録し、介護計画の作成や職員間の情報共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者から要望があれば対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出前を取ったり、外食・ドライブを行い楽しく生活できる様にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には主治医に受診し、主治医では対応できない場合は他の医療機関に紹介して頂き、受診をしている。本人、家族が主治医ではなく、他の医療機関を希望した際は、本人、家族が希望した医療機関に受診をしている。	田中ハートクリニックのかかりつけ医には月1回の訪問診療を御願している。循環器内科の先生なのでほとんどのケースは診て頂く事は可能だが、時に他科に罹りたい方もあり、家族の代わりに通院支援を行うこともある。結果は電話で直接家族に報告を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時やメールにて状況を伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は病院関係者と随時、情報交換を行い適切な治療が行えまた、早期に退院できるようにしている。主治医とは往診や看護師来苑時に相談を行い、また、メールのやり取りにより、関係強化に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や入所後に終末期や重度化した際の対応について家族や利用者へ尋ね、施設が行えること説明し、終末期や重度化した時の方針を決め、それを主治医に報告している。	今年度は2名の看取りを行った。急変時には救急車で入院することになっているが、その後、家族の判断で住み慣れた自宅へ戻られる事もあり、ご家族には施設で対応出来る事を入所時にしっかりと説明させて頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修時に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回実施し地震、火災、夜間想定 of 避難訓練を実施し、運営推進会議時に避難状況を発表し、地域の協力が得られる様にしている。	昨年12月に、富津市の防災無線の設置が行われ災害情報等地域へのアナウンスに関しては情報がとれるようになった。BCP計画も本部指導の下具体的な対応方法が書かれたマニュアルも出来上がっており、昨年度から一歩進んだ状況が伺える。非常食や、5年保存水など、緊急時に備えた準備は万全に行われている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報や事務所で話す様にし、ご利用者には丁寧な話し方と対応をするようにしている。	個人情報の取扱いについては、さらに厳しく管理される必要性が望まれる中、事業所内では利用者一人ひとりの尊厳と権利を守る為のプライバシー確保を行う風土作りが必要となってくる。利用者一人ひとりの人格を常に意識したケアを行って行く必要がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の訴えを傾聴し、分かりやすく話すと共に助言を行い、自己決定が出来る様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者がその時の気分や状況により、生活できる様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思疎通が困難な方は声掛けを行い表情を見ながら職員が行い、意思表示が出来る方は、自分で行って頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きや片づけ、テーブル拭き等のご利用者に行って頂き、食事を作るのは職員が行っている。	ADLの低下により、利用者の皆さんによる配膳や後片付けなどのお手伝いは徐々に出来なくなってきている。食材は外部業者からの調達と、事業所内での調達によるものがあり、半分くらいは冷凍食品を利用している。皆で食事を摂るときの人間関係から、座席の取り方なども注意を払いできるだけ楽しく食べて頂けるように配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態や摂取量を見て、個々の利用者にあつた、食事形態を提供し、また、食事摂取状態や体重を主治医に伝え、栄養確保が出来る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は本人に任せ、時々、口腔内のチェックを行い、自分で出来ない方はイソジンで口腔清拭を行なっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、ご利用者の状況により、日中はトイレで排泄し夜間はオムツ対応にする、頻尿の方はトイレ誘導を多くする等、オムツ使用の削減、失禁防止をしている。	排泄は基本トイレで行う事を可能にするため、行きたいときに行けるよう本人の生活リズムに沿った支援を心掛けている。自立度は徐々に衰えてきている感じがする中で、オムツ使用者については日中はできるだけトイレでの排泄に拘って誘導をしている。オムツ、パッドは実費請求となるため、できるだけ減らす努力はしているが、思う様には行かないのが現状である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を多くし、レクリエーション等で体を動かし便秘防止に努めている。また、便秘の状態を主治医に報告し、便秘薬の処方検討をして頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は施設側の時間帯や順番で行っている。	入浴は現在制限は設けず、毎日利用可能となっている。とはいえ、1日の利用者は2~3人で、一人あたりで言えば週2~3回の利用となっている。比較的温かい気候でもあり、設備リニューアルを行ったことから、大変好評である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息、睡眠は利用者の自由に行なっている。日中、自分で休めない方は、職員が利用者の様子を見て、ベッド誘導をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は、医師や薬剤師に聞いたり、薬の説明書で用法、用量、副作用について確認できるようにしている。また、服薬中に変化があれば、主治医に報告をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや館内清掃等の家事やレクリエーションを行い、楽しく充実した生活が送れる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出支援は行っていない。	外出支援は基本的に行っていない代わりに、屋内でのイベント企画実施により参加者やスタッフとの交流を通じた社会性の向上に力を入れたり、施設敷地内での園芸を通じて利用者の心の癒やしや身体機能向上が期待されます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	2万円程度の小遣いをご家族から預かり、何か買いたい物があれば、職員が買い物に行き購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者から要望があれば対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を心がけ、季節の飾りつけを行い生活感が出せる様にしている。	訪問調査を行った当日、リビングの状況を少し垣間見る事が出来たが丁度昼食前の時間で職員の方が昼食の準備をされている状況が確認出来たが、利用者の方々ほとんど見られず、利用者の皆さんの多くは居室に入っておられる様子であった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に使用できる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分が使用していたものを持ってきてもらっている。	居室は、利用者が唯一プライバシーを確保出来る場所であり、そういった生活のリズムを尊重出来る場所である。馴染みの物の持ち込みを許可したりして、くつろぎや快適さを提供し、安全に過ごせる場所として提供されている。職員もそういったことを意識しながらお部屋のケアも行っている。特に整理整頓、お掃除についても毎日確認しながら気になることがあれば、本人にも確認しながら対応するようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーや手すりを設置し安全に生活できるようにしている。		